

# 兵庫県の森林・林業・木材産業の現況と新たな動き

兵庫県木材業協同組合連合会 参事 松田博文



## ① 兵庫県の森林資源と林業の動向

兵庫県は、県土面積の67%にあたる559千ha（全国第14位）が森林で、民有林の人工林面積は221千ha、人工林率は42%であり、このうち伐採して利用可能とされる46年生以上の森林が77%を占めています。

また、スギ、ヒノキを主体とした人工林の蓄積（立木の材積）は85,514千m<sup>3</sup>、年間1,079千m<sup>3</sup>増加しており森林資源の充実が進んでいます。

しかしながら、民有林の約半数を占める個人所有の森林は小規模であり、効率的な施業が難しい状況にあります。

県内の素材生産量の動向は、①外材利用から国産材利用へのシフト、②（協）兵庫木材センターが本格稼働したこと、③県内3か所で大型木質バイオマス発電所が稼働を始めたこと、等から平成26年の316千m<sup>3</sup>から令和元年の443千m<sup>3</sup>まで増加しました。

今後増加する木質バイオマス発電用燃料や国産材時代に対応した木材需要に応じていくためには、森林施業の集約化、路網整備と機械化の促進、生産コストの低減を図り、安定供給体制の整備を図っていくことが重要となっています。

## ② 兵庫県の木材産業

県内の製材工場は、いわゆる「三ちゃん製材」と言われた小規模工場を中心に大きく減少しています。現在、本格的に稼働しているのは、品質・規格の確かな製材JAS認定工場12工場、構造用集成材のJAS認定工場が3工場となっています。

そのなかで県内の最大工場は、平成22年に稼働を開始した近畿最大の（協）兵庫木材センターであり、柱、間柱等の建築構造用材や小割材を活用したフリー板生産を行っています。これらの施設整備にあたっては、林業信用保証制度を活用し順調な経営が行われています。

一方、兵庫県において平成29年6月に議員提案により制定された「兵庫県産木材の利用促進に関する条例」を設置し、条例に基づく「指針」

を策定し、川上から川下までの関係者の連携、協働により、「建築用と燃料用の2本柱」で余すところなく県産木材の一層の利用拡大に取り組んでいます。

今後、木材の需要動向は、昨今のコロナ感染防止対策等が世界貿易に対する影響にみられるように自国での安定供給シフトの動きが強まることが考えられるため、ますます国産材の安定供給体制の構築が必要となってくると思われます。



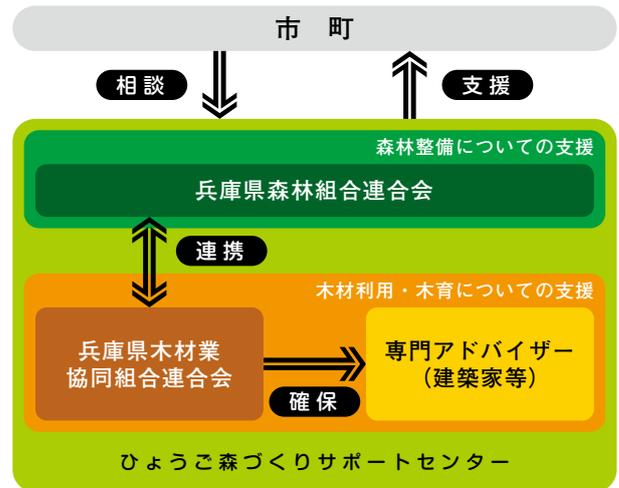
協同組合兵庫木材センター（宍粟市一宮町）

### 3 ひょうご森づくりサポートセンター

平成30年度の税制改正において、森林環境譲与税の創設が決まり、税の用途として市町はそれぞれの地域において、条件不利地での森林整備や所有者の意向調査、境界画定、人材育成、担い手の確保、技術開発、木材利用、木育等の推進を進めることに活用することとなりました。

しかしながら、本県においては、森林の存在しない市あるいは農林部局のない市町が阪神間にあるため、森林環境譲与税の効果的な活用が不透明な状態でした。そのため、県の林務部局と林業関係団体が協議し、市町が行う新たな森林管理システムや森林環境譲与税を活用した取り組みを支援するため「ひょうご森づくりサポートセンター」を設置しました。

サポートセンターでは新たな森林管理システムのもと市町が実施する森林整備や木材利用・木育に関する相談対応を行うほか、要請に応じて業務支援等も行います。



ひょうご森づくりサポートセンターの組織は、森林管理部門を担当する兵庫森林組合連合会と木材利用部門を担当する兵庫木材業協同組合連合会が担っており、木材利用部門では木造や木質化に詳しい建築家、工務店、専門家と連携することで、地域の事情に応じて寄せられる市町や一部県民から寄せられる多様な相談に対応する体制を整えています。

### 4 都市木造化の推進

終わりに、兵庫県の林業関係団体が入居していた昭和40年代に建設した旧林業会館は築後50年近く経過し、阪神淡路大震災等のため老朽化により、使用に支障をきたす状況になったことから、建て替えることになりました。

業界団体として、都市部ではあるが何とか木材を使用した都市ビルを建築することが森林・林業・木材産業の循環や発展に不可欠であるとの結論に達し、厳しい建築規制や防火地域の中で、オフィス空間の確保と木材をいかに見せてアピールしていくかを専門家、業界等関係者で協議を行い、平成31年1月にCLTと鉄骨のハイブリット工法で竣工しました。



兵庫県林業会館  
(神戸市中央区)

新型コロナウイルスがまん延し始める令和2年2月頃までは、全国から多くの見学者の対応に追われました。新型コロナウイルス感染拡大が1日も早く収束し、見学者が再び来神され、都市部での木材利用の一つの事例として参考にいただき、都市の中での木材利用に少しでも貢献できればと思っています。